

第57号 「コーヒー」

現在のマイブームの一つがコーヒーです。50歳を過ぎた頃からハマリ始め、妻と二人で県外も含めた自家焙煎のお店を巡るようになりました。今では毎朝、好みの豆を挽きハンドドリップで淹れています。一言でコーヒーと言っても、豆の産地や精製方法そして焙煎度や淹れ方まで、本当に奥深いものがあります。深入りすればするほど、自分には難しい分野だとわかってきましたが、最近では生豆から自分で焙煎したいという願望も湧いてきました。退職したら本気で考えてみたいとも思っています。

1685年生まれのヨハン・セバスチャン・バッハは、大のコーヒー好きだったと言われています。そしてコーヒーハウスでたびたび演奏会を行っていたそうです。バッハ作曲の「コーヒーカンタータ」という曲の歌詞に、次のような一節があります。『コーヒーは、1000回のキスよりも素晴らしく、マスカットワインよりも甘い。ああ、コーヒーはなんて美味しいのでしょうか。』

1770年生まれのルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンも無類のコーヒー好きだったと言われています。毎朝、豆を1粒ずつ数え、必ず60粒の豆を自慢のコーヒーミルで自ら挽いて飲んでいたとのことでした。

大作曲家も愛したコーヒーを、人はいつ頃から嗜むようになったのでしょうか。起源には諸説ありますが、その内の一つである「エチオピア起源説」を簡単に紹介します。

6世紀(諸説あり)に、エチオピアで山羊を飼っていたカルディという少年が、興奮して飛び跳ねている山羊を見つけました。調べたところ、山腹の木に実る赤い実を食べていることがわかりました。これを修道僧たちも食し、修行中の眠気覚まし薬として使用したということです。

そして15世紀に、山火事でコーヒーの木が焼かれ、焼け跡から香ばしい香りが漂っていたことが、現在のような焙煎につながったとも言われています。

1600年代の初め、ヨーロッパではコーヒーは珍しい飲み物だったようですが、17世紀中頃に急速に広まっていきました。そして17世紀後半にはコーヒーハウスが多く建てられました。年代から見て、バッハやベートーヴェンがコーヒー好きだったということも頷けます。タイムスリップができるなら、バッハやベートーヴェンに淹れてもらったコーヒーを味わってみたいものです。

多忙な生活の中にもブレイクタイムは必要です。皆さんにとってホッと一息つける時間はどのような時間ですか？